

(S2020-51 用)

研究課題名	脳動脈瘤の増大およびコイル塞栓術後再発におけるパロキセチンの抑制効果の後ろ向き検討
研究期間	倫理委員会承認から 2021 年 3 月 31 日まで
研究の目的と意義	<p>血管内治療は、特殊な器材を放射線機器（血管撮影装置）の下で取り扱うものであり、高度な技術と経験を要することは言うまでもなく、術者の教育と治療の安全性の確保に社会の関心が高まっています。離脱型コイルの開発と普及による脳動脈瘤塞栓術の増加、ステント留置術の導入による閉塞性脳血管疾患に対する血管内治療の増加など、実施症例数は増加の一途をたどっており、安全確実に治療を行うための標準的治療の確立および術者および治療スタッフの教育を含めた実施環境に関する一定の指針作りが急務となっています。</p> <p>そこで、我が国の脳神経血管内治療の教育に関する指針(ガイドライン)を作成する基礎資料とするため、脳神経領域の血管内治療に限定して国内で行なわれた治療症例の、実施内容および合併症の頻度と程度、術者の習熟度等の実態を調査する登録研究を行うため、2005 年から 2014 年に実施された 43,000 件を超える治療が登録され、17 の英文論文にその結果が公表されました (JR-NET1~3)。</p> <p>今回は 2015 年から 2019 年の治療実績を収集しますが、2015 年は我が国で初めて機械的血栓回収療法の有用性が科学的に確認された年で、やはり脳血管内治療の大きな節目となりました。JR-NET4 を実施することにより、JR-NET、JR-NET2、JR-NET3 と合わせてさらに重要な知見を得ることが期待できます。</p>
研究方法	2015年1月1日から2019年12月31日に日本脳神経血管内治療学会専門医（指導医を含む）が治療に関与（術者、助手、指導）した脳神経血管内治療が施行された患者さんの情報をデータセンターにインターネットを介して登録し、解析を行います。収集するデータは、個人を特定できる情報（住所、氏名、生年月日等）は含みません。また、データの保管管理は、パスワードを設定したファイルとして管理し外部と接続できないパソコンで厳重に取り扱います。
個人情報の保護、研究参加の拒否について	利用する情報からは、お名前、住所など、患者さんを直接同定できる個人情報は削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、その際も患者さんを特定できる個人情報は利用しません。また、本研究への参加拒否を希望される患者さんについては、担当医師にお申し出ください。
結果の公表	研究で得られた結果は、学会、医学専門誌への発表を予定していますが、その際にも、患者さんの名前など対象者を特定できる情報は含まれません。
問合せ先	【研究責任者】 京都第二赤十字病院 脳神経外科 副部長 村上 守 〒602-8026 京都市上京区釜座通丸太町上ル春帯町 355-5 TEL : 075-231-5171 (代) FAX : 075-256-3451 (代)